

まん延防止等重点措置区域の拡大について（令和4年1月13日）

スライド 1

- 本日は、まん延防止等重点措置区域の拡大について、ご説明します。

スライド 2

- まず、全国の感染状況です。沖縄県の感染状況がかなり高まっています。また、東京都や大阪府といった大都市においても、感染拡大が起こっており、感染状況が高まっています。

- 広島県の感染状況は、こういった大都市の影響を受けることから、今後も県内の感染状況は拡大する見込みです。

スライド 3

- 直近の感染急拡大は過去の感染拡大とは全く比較にならない速度、まさに想像を絶する速度となっています。
- 新規報告数も1月1日は20人程度だったのに対し、1月12日時点では652人と、約10日で約30倍になっています。

スライド 4

- 感染状況の悪化は、県西部から東部にかけての沿岸部に見られていましたが、現在は、県全域で継続的に感染者が確認されています。極めて短期間で、ほぼ全ての市町で、直近1週間の人口10万人あたりの新規報告数が、25人を超える状況となっています。
- 現時点で相対的に感染水準が低い市町も、感染拡大している近隣市と生活圏が一体であり、これまでの拡大スピードを鑑みれば、当該地域においても数日以内に感染が拡大する可能性は高く、先手を打った感染拡大防止が必要です。

スライド 5

- これらのことから、まん延防止等重点措置の適用区域を10市3町から県内全域に拡大します。
- 期間は1月14日からです。

スライド 6

- 飲食店の要請対象に、②にある4市6町を追加し、県内全市町に拡大します。要請期間は、1月14日からです。猶予期間を1月16日までとし、遅くとも1月17日から協力してください。
- 金額や要件は、これまでと変わらず、ご覧の通りです。
- 協力金の早期給付につきましても、希望される方には定額32万円給付します。

スライド 7

- 1月11日以降のイベントについては、引き続き、開催要件を満たさないイベントのチケットの販売は行わないでください。

スライド 8

- また、1,000㎡を超える大規模な集客施設に対しては、入場者の整理などを要請しています。例えば、
 - ・ 出入口へセンサー等を設置して入場者を計測、
 - ・ 出入口の数の制限、
 - ・ 入場整理券の配布などの方法により、人数管理や人数制限等を行ってください。
- また、入場者へのマスクの着用の周知等を行ってください。

スライド 9

- 重点区域が県内全域になったため、全県で外出を半分にしてください。20時以降の外出はやめてください。
- ほか出勤者数の削減や、20時以降の勤務の削減をお願いします。また、往来については、県境を越える移動は最大限、自粛してください。県内の移動であっても、極力控えてください。

スライド 10

- また、さきほどのおり、現在の感染状況により、県境をこえる移動は、最大限自粛することを要請しており、「やっぱ広島じゃ割」についても次のとおり対応します。
- 新規予約を1月7日に停止したところですが、今後、既に予約済のものについても、利用の自粛をお願いします。

○ また、レベル3移行時には、本事業の利用を停止します。

○ なお、この度の利用自粛に伴いまして、事業者の皆様へ予算の範囲内で、キャンセル補填を実施します。

○ キャンセル補填の対象期間は、本県の感染状況をレベル2に引き上げるとともに全県で外出をできるだけ削減するよう要請した1月6日以降のものと考えております。

スライド 11

○ 続いての要請です。引き続き、感染防止対策の徹底をお願いします。この感染力からすると今はだれが感染してもおかしくありません。

○ また、体調が少しでも悪い時は、すぐに医療機関を受診してください。

○ 無症状向けのPCRセンターや臨時スポットについて、PCR検査数がかなり増えており、現在、検体採取の予約日が、数日先になっています。

○ もう少しこの状況が続くとみていますが、検査機関の拡充などにより、検査体制を強化すべく、早急に調整しているところです。

スライド 12

○ 今後の見通しについて、12月31日から1月5日までは2日で2倍以上のペースで感染が拡大しており、これを基にシミュレーションを実施していました。

○ それから1週間以上経ったため、直近の状況を踏まえ、再度シミュレーションを実施しました。

○ いずれのシミュレーションについても、過去の実測値から、推定感染日と公表日は9日ズレることがわかっているため、まん延防止等重点措置の適用日前日の1月8日を推定感染日ベースのピークとすると、その9日後である1月17日を公表日ベースのピークとしています。

○ 直近の2日で1.3倍のペースで感染拡大すると、新規報告数は最大1300人程度になり、以前のように2日で2倍のペースで感染拡大すると、最大3000人程度を見込んでいます。

スライド 13

○ 病床使用率のシミュレーションについて、先ほどの感染状況シミュレーションを用いて実施しています。2日で2倍といったリスクシナリオの場合、病床使用率が90%近くなり、医療がひっ迫する状況です。

○ 感染拡大が、今後も一定期間続いた場合や、高齢者の感染が多くなってきた場合、医療従事者が感染などで出勤できなくなる場合、より医療がひっ迫する可能性があります。

スライド 14

○ 続いて、自宅療養者についてです。患者の多くは自宅での療養をせざるを得ない状況になると見込んでいます。

○ 一方、先日お示ししたとおり、先行して感染拡大している沖縄県のデータからも、オミクロン株に置き換わることで症状が悪化する確率が低くなる可能性があります。

○ こうしたことを踏まえ、原則、入院・宿泊療養の方針は踏まえつつも、軽症や無症状の患者は自宅療養を基本とするよう見直すこととしました。

スライド 15

ご覧のとおり、自宅療養者への相談・診療体制を拡充します。

スライド 16

○ 今後、感染者が増えていく中で、入院や自宅療養の判断を速やかに行い、自宅療養の方への健康観察の体制を強化します。

○ 重症化しないからといっても、自宅療養者が激増すれば物理的な限界が来て、十分な健康観察ができなくなる恐れがあります。

○ また、感染が猛威を振るう中、医療従事者の方々やそのご家族が感染したり、あるいは濃厚接触者になることにより、医療機関にさらなる負荷がかかりかねません。皆様の御自身の健康を守るため、そして、医療を守るため、どうかご理解とご協力をいただき、お一人お一人が今できる行動をとっていただきますようお願いいたします。